

(5) 岡山藩の医師の系譜について—池田家文庫『醫師家譜』にみる江戸時代の藩医の姿—
医療福祉学科（総合教育センター） 西脇 藍

【要 旨】

岡山大学池田家文庫所収の『醫師家譜』をもとに、江戸初期（藩主池田光政の治世1632～1672年）の岡山藩の藩医の系譜そしてその活動について紹介する。本史料は藩主専属の医療従事者28名の履歴が記された文書である。この史料によると、当時、医療従事者は「醫師」「外科」「針立」「茶道」に区分されており、その活動は藩主の参勤交代に随行したり、幕府や藩の普請場で「医療班」として赴いたりするなど、国元における藩主の身辺のみに留まらないことが確認できる。

岡山藩の医療に携わった者を含めた各藩士の経歴を記した史料には『奉公書』があるが、『奉公書』以外にこの史料が作成された背景の一つには、池田光政の儒教重視による宗教政策の影響があると考えている。光政が自身や親近者を診察させる医者の中からキリシタンや仏教に関わる者を排除するため、経歴を詳らかにさせることを目的に作らせたのであ

ろう。しかし医師の具体的な医療活動の内容や生活実態が記述の中心ではないにせよ、岡山藩の基盤が築かれた時代の藩の医療従事者の「姿」を伝えてくれる重要な史料であることには間違いない。

これまで近代以前の岡山の医学(医師)の歴史研究といえば、幕末明治期に医学館が創設され岡山大学医学部へ至るまでの動向や、津山洋学が主流であった。また足守藩出身の緒方洪庵に関連して種痘に携わった各医師の個人レベルでの研究も多数見受けられる。しかし江戸期の史料を基にした岡山藩の医師の系譜の体系的な研究は、管見の及ぶ限りまだ多くはない。そこで本発表を端緒に、藩政史料をもとにした江戸期の岡山藩医の周辺を主軸にした考察を積み重ね、岡山の医療史をより充実させたいと考えている。そして将来的には、なぜ岡山において近世、近現代にかけて医療や福祉における注目すべき人物を多く輩出し、先駆的な事例を発信する原動力となったのかの歴史的理由の一端を探りたいと考えている。